

20020

アンケート調査からわかる カテ室看護師の苦手意識

¹湘南鎌倉総合病院

小林 紀美¹

当院の循環器看護師は、病棟・外来・カテーテル室と兼任している。配属されるスタッフは、看護師としての経験はあるものの、循環器の臨床経験がほとんどないケースが多い。その中で、それぞれの業務の特性や専門性の高い看護・知識を習得していくことは、精神的負担が大きい。特にカテーテル室は、超急性期に携わることが多く、緊張感や精神的負担は更に増す傾向にある。その為、カテーテル室へ配属された後、スムーズに業務に取り組めるようになるスタッフとそうでないスタッフ間に差が生じて、後者は苦手意識がなかなか克服できないでいる。

その差は、病棟・外来業務にも少しずつ影響していくのか、カテーテル室で上手く業務がこなせてくると、患者の循環動態の把握や処置なども柔軟に対応できるようになってくる。つまり、カテーテル室で業務をこなし、循環動態の把握ができるようになるということが、病棟・外来業務もスムーズにこなすことができる一番の近道であると考えられる。

そこで何故、カテーテル室は精神的負担が多いのか、様々な観点からアンケート調査を実施した。その結果、苦手意識は現在おかれている状況や循環器・カテーテル室特有なものだけが要因ではないことが明らかになった。そして、その結果は、循環器に配属されるスタッフの教育体制を見直すきっかけとなったため、ここに報告する。